

こなとこに



市民憲章

1、富士山のように
強く 正しく きまりを守り
平和で安全な社会をつくります

戦争体験を語り継ぐ



△九月九日の第一回会合

平和で豊かな日本。私たちは平和な現代を当たり前のこととして生活していますが、今の平和は44年前までの戦争という大きな犠牲の上に成り立っていることを忘れるわけにはいきません。

しかし、年月とともに戦争を体験した人は少なくなり、戦争の悲惨さは風化しがちです。

こうした中、戦争の恐ろしさを後世に伝え、平和について考える「富士の語りべ」の会がこのほど発足しました。

「富士の語りべ」の会では、いろいろな戦争体験（戦場での話や戦争時の人々の生活など）を収集・記録し、隔月に一度体験談を聞くなどして、若い世代に伝えます。詳しくは、代表の橋口傑さん ☎51-8621へ。

ふるさとの昔話



▷お薬師様



福泉寺のお薬師様

田子の浦地区の柳島にある福泉寺というお寺には、高さ二十センチぐらいの石のお薬師様があります。今回は、この石仏のお話を住職の岩佐善公さんに伺いました。

波打ちぎわで光る仏様

昔、弘法大師が土佐の浜辺の村で、石のお薬師様を刻みました。それから何百年かたつたある年の秋のことです。大磯(神奈川県)の海岸に光る物があり、村人の評判になりました。しかし、漁師は怖がってだれも近寄りません。そのころ、大磯で曾我兄弟の菩提を弔って、ひっそりと暮らしていた虎御前が、「私が行って見てきましょう」と言って、その光る物を拾って来ました。それは、石のお薬師様でした。

仏様を福泉寺へ：

次の年、曾我兄弟の七回忌を済ませた虎御前は、尼の姿で信濃の

自然と信仰心がわく

岩佐さんは「お薬師様を見ると、古さの中に歴史を感じ、自然と信仰心がわいてきます」と語ってくれました。※お薬師様は一般公開していません。



▷岩佐さん

地名の由来

もり 島 (富士南地区)



古郡孫太夫重政が加島新田の開発に心血を注いでいたころのことです。横割の伊藤八左衛門の家に足をとどめていた高沢道喜は、重政から許可を得て、たった一人で開発をしたのが森島村でした。初めは道喜島村と呼んでいましたが、後に幕府の命で森島村と改めました。森島の法田寺は道喜が建てた寺で、彼はここに葬られています。

こちら編集室

特集の「お父さん、出番ですよ」いかがでしたか。この企画は、そもそも編集室の面々があまりお父さんらしいことをしていないという事実からスタートしました。ちなみにお父さんアンケートを編集室の子供たちに行ったところ、「お父さんと一緒にいる時間は減った」という結果が全員から。よし、明日からはミステリアスにヘンシーン。